三鷹市立高山小学校　令和8年度【　生活　】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	○１学期は１年生と２年生合同の「学校探検」を２年生中心に行うことができた。２学期に２年生とペア学級ごとに「あそびランド」を２年生中心に行った。３学期にはその経験を生かして未就学児を招待して「小学校体験」を１年生中心に行うことができた。 ○一人一鉢のアサガオの花の栽培を行い、種まきから成長、開花、種取りまでの継続観察を行ったり、リース作りをしたりした。３学期には次の１年生の入学を祝うことも目当てとしてチューリップの球根を植え、年間通して植物に興味をもたせることができた。 ○季節ごとに校庭や牟礼の里公園の動植物を観察し、自然を味わう活動を行い、それぞれの季節にしか見られない景色の変化や、動植物の変化などに気付かせた。 ○日本の伝承遊びの遊び方を学び、友達と遊んだり、家族にインタビューしたりして楽しむことにより、学ぶ楽しさや教え合う良さに気付かせた。	○校庭の植物を観察したり、公園などで自然を味わったりする活動を行った。学習用タブレット端末で撮影し、季節特有の景色の変化や、生き物の変化を共有したり比較したりさせた。また、学習用タブレット端末を活用して写真撮影する機会が増えたことで学習タブレット端末に慣れ親しむようになった。 ○２年生とのペア学級を設定し、２年生と「学校探検」を行うことができた。２年生からそれぞれの教室の説明を聞きながら、各施設の名称や目的を理解することができた。２年生の姿を見て、「自分もこんな２年生になりたい。」という目標をもつことができた。探検後に２年生にお礼の手紙を書くことで、感謝と憧れの気持ちが高まった。 ○アサガオを一鉢ずつ育て、種まきから成長、開花、種の収穫まで継続して観察を行っている。毎日水やりを欠かさない児童がいた一方で、水やりを怠り、枯れかけさせた児童もいたが、台風の前に何度も鉢を安全な場所に移動する行動を通して、植物を大切に育てようとする気持ちが高まった。観察では学習用タブレット端末を用いて写真を撮り、教室で写真を見ながら机上で観察カードを書くようにした。被写体がぶれていたり、中央に写っていなかったりするものもある。学習用タブレット端末を使用することで、天候に左右されず、落ち着いた気持ちで観察カードを書くことができた。	○季節を感じる学習では、季節毎に同じ場所での校外学習をし、見付けた生き物や風景を撮影し、見付けたことや気付きを言語化させたり、画像を絵で記録させる。１年間を通して振り返りを行うことにより、四季を意識させ、比較する活動を通して、季節の変化に着目させる。また、写真撮影に関して、移動しながらの撮影をしないことや目的物を中心に捉える練習をするなど、操作スキルの基礎指導を行う。 ○今後も２年生との交流を実施する。５月の学校探検の他に、１１月には、２年生とのペア学級ごとに「おもちゃランド」を実施予定。異学年との経験を活かした活動ができるようにする。 ○アサガオを育てる活動を通して植物の一生について考えたり、植物に愛着をもって育てたりする機会をもたせる。国語科と併用し、観察の視点（背の高さや葉の大きさや数、匂いや手触り、前回からの変化など）を与えることで、変化を多様に表現できるようにする。また、他者の発見を共有する場面の設定として、書いたことをペアやグループなどで発表する時間を設けたり、学習用タブレット端末を用いて画像などを共有できるようにする。 ○アサガオのつるでリースを作る活動を取り入れることで、自然の物の活用法や季節の工夫した遊び方や楽しみ方などをＳＤＧｓの視点からも体験させる。 ○昔遊び（けん玉・こま・あやとり・お手玉・カルタなど）に触れる機会をつくり、学びを通して日本の伝承文化の良さを感じたり、人と触れ合ったり楽しんだりできるようにする。３学期には、幼稚園・保育園の児童を招待し「むかしあそびランド」を計画する。
第2学年	○ミニトマトの観察では、苗から育てることで実の付き方がよくなり、花から実になるまでの変化を詳しく観察することができた。観察では、観察カードの裏に、視点を明確にして観点ごとにメモできる欄を作ったことで、書くことに課題がある児童が書き進めやすくなった。 ○１年生との学校探検やおもちゃランドでは、１年生という相手意識をもって計画・実行する良い機会となった。１年生との関わり方について考えることで、説明の仕方やわかりやすいルール作りなど目的意識をもって、よりよくする方法を考えることができた。 ○複数回に分けて町探検を実施し、施設の方などにインタビューしたことをまとめることで、自分たちの住む地域に詳しくなった。また、聞いたことを記事にまとめたり、地域とのかかわりについて考えたりする機会にもなった。町探検を通して歩き方や施設での行動など公共でのマナーなども併せて学ぶことができた。	○ミニトマトを一人一鉢育て、葉・茎・花・実などの観察を行い、観察カードを書く時間を多く取った。国語科の学習を生かして観点に沿ってメモを取ることで、記録する内容を順序だてて書くこと、大きさや形などを具体的に書くことができた。野菜の世話の仕方について学習したことで、野菜の成長や変化に興味をもち、すすんで観察したり世話したりできた。 ○１年生との学校探検を５月に行った。２年生として、１年生との関わり方について考え、目的意識をもって校内を案内する準備を行うことで、２年生としての自覚を高めることもできた。しかし、準備に多くの時間を使用するため、探検の日に合わせて取り組むのに、児童にも負担がかった。２学期末の「おもちゃランド」でも同じ組み合わせで１年生と関わる機会を作る予定であるため、継続して学習を行っていく。また、学校で働く教職員にインタビューすることを通して、学校の施設だけでなく、自分たちを支えてくれる人たちについて気付くことができた。課題として、大人へのインタビューの学習で言葉に詰まったり緊張してしまったりする児童もおり、練習や経験を積ませるようにしたい。 ○１学期の地域での町探検は３回予定したが、天候不順のため、中止となった地域が１つあった。自分の居住地区であっても、知らないことがたくさんあることなどに気付くことができた。自分の町への興味関心があまり高くない児童もいたため、町への愛着をもたせることに課題が残る。	○ミニトマトの観察では、苗から育てる方が実りも良く、成長の細かい変化を観察できるため、苗を購入して活動をすすめた。観察する際には、観点を明確に設定して気付いたことを詳しくメモを取る活動を事前に入れる。さらに、順序の付け方や文型を示すことでより詳しい記録文を書くことができる。書き方を例示することで、書くことに課題のある児童も取り組みやすいようにする。また、ミニトマトだけでなく、ほかの生き物の観察にも記録文の書き方を活用し、定着を図る。 ○５月の学校探検に続けて、１１月にも１年生との「おもちゃランド」で交流を行う。その際には、おもちゃ作りの計画・作成・ルール作りなどに時間の余裕をもって取り組めるようにする。国語科、図工科との合科を行い、取り組み内容についても、精選して取り組めるようにする。１年生に対する相手意識をもち、児童の主体的な活動を促進できるように指導計画を工夫する。 ○町探検（地域探検）が天候不順により中止になったので、実施時期、実施方法を再検討する。発見したことを学級でまとめて掲示することで、自分たちの住んでいる町について詳しく知るだけでなく、地域の施設についても知りたいという意欲を高めるようにする。２学期の施設等への見学・インタビューでは、町にある施設やそこで働く人々の思いなどにも興味関心を高められるように導入を工夫する。また、大人へのインタビューの仕方の定着を図り、公共のマナーを守って生活しようとしたり、地域や公共施設で働く人々の思いに気付いたりできるよう、学習活動や発問の工夫を行う。２学期には、大きな行事が続くので、施設見学は学級単位で実施し、学級の児童を４グループに分けて、各クラスに分かれ、すべての施設について全児童がプレゼンテーションを開けるように、工夫してまとめを行う。
第3学年			
第4学年			
第5学年			
第6学年			